



エンジニア 調査レポート

AIによるエンジニアの変化の実態と
転職・キャリア選択の現状



調査結果サマリー

88.7%のエンジニアが業務で何らかのAIツールを利用

ベンチャー企業ではClaude Code、大企業やSIerではGitHub Copilotをコーディング支援の目的で利用する動きが活発に。

AI活用による効率化が進む一方で、レビュー負荷の増大など、新たな課題も生じている。

意思決定の高度化、並列志向による疲労、新技術のキャッチアップ負荷の増大など、「AI疲れ」を感じさせる回答も見られた。

AIの普及により高まっていたキャリア検討の機運は、半年前と比較するとやや落ち着いた傾向

それでも、4割以上のエンジニアが引き続き今後のキャリアを検討しており、転職先の「AI活用」度を見る傾向も強い。

企業・エンジニア個人双方で、「二極化」の傾向が見られつつある。

AI活用状況が、転職時の昇給も左右する他、AI導入は企業の従業員満足度にも影響。個人レベルでは業務外での学習時間にも差が生じている。

1.調査対象者の概要

- 回答者の年齢・経験年数
- 回答者のマネジメント状況
- 回答者の所属企業の規模
- 回答者の所属企業の業態
- 回答者の職種
- 回答者の年収帯
- プロジェクトの進め方

2.エンジニアのAI活用状況

- 業務での利用状況
- Coding Agentの活用状況
- 最も利用頻度の高いCoding Agent
- AIによるコードの割合
- Coding AIを活用したことでの変化
- Coding Agent以外のAIツールの利用状況
- 個人でのAIへの課金額
- 個人でのAIへの課金額の推移

- 個人課金額の変化と課金対象ツール
- 職場のAI活用度合い
- 職場のAI活用におけるボトルネック
- 職場のAI活用度合いと従業員満足度
- 個人のAI活用度合い
- “AI疲れ”的実態
- “AI疲れ”的実態（自由回答）

3.AIの普及によるキャリア選択への影響

- 転職意向の変化
- 転職先の企業に求めるAI活用度合い
- 転職者の年収変化
- 転職した際の決め手
- 転職への迷いの有無
- 転職検討者の興味・関心事項
- 自己学習時間の変化
- 自己学習の時間とAI活用度合い
- 働いてみたい企業
- 技術面で参考にしている企業

おわりに

- Findyからのご案内

本レポートは、Findy会員に対して下記概要のWebアンケートを実施し集計・分析したものになります

※本レポートではエンジニアの回答のみを分析対象としています ※小数点第2位を四捨五入した結果を表示しています

※一部回答は、読みやすさを考慮して、元の意味を変えない範囲で編集しています

調査方法：Findyサービス会員に対して、サービス内でアンケートを実施

調査名：エンジニアのキャリア・生成AIの影響に関するアンケート（2025年11月）

調査期間：2025/11/14(金)～2025/11/28(金)

調査項目：最大41問

調査対象：Findy会員ユーザー

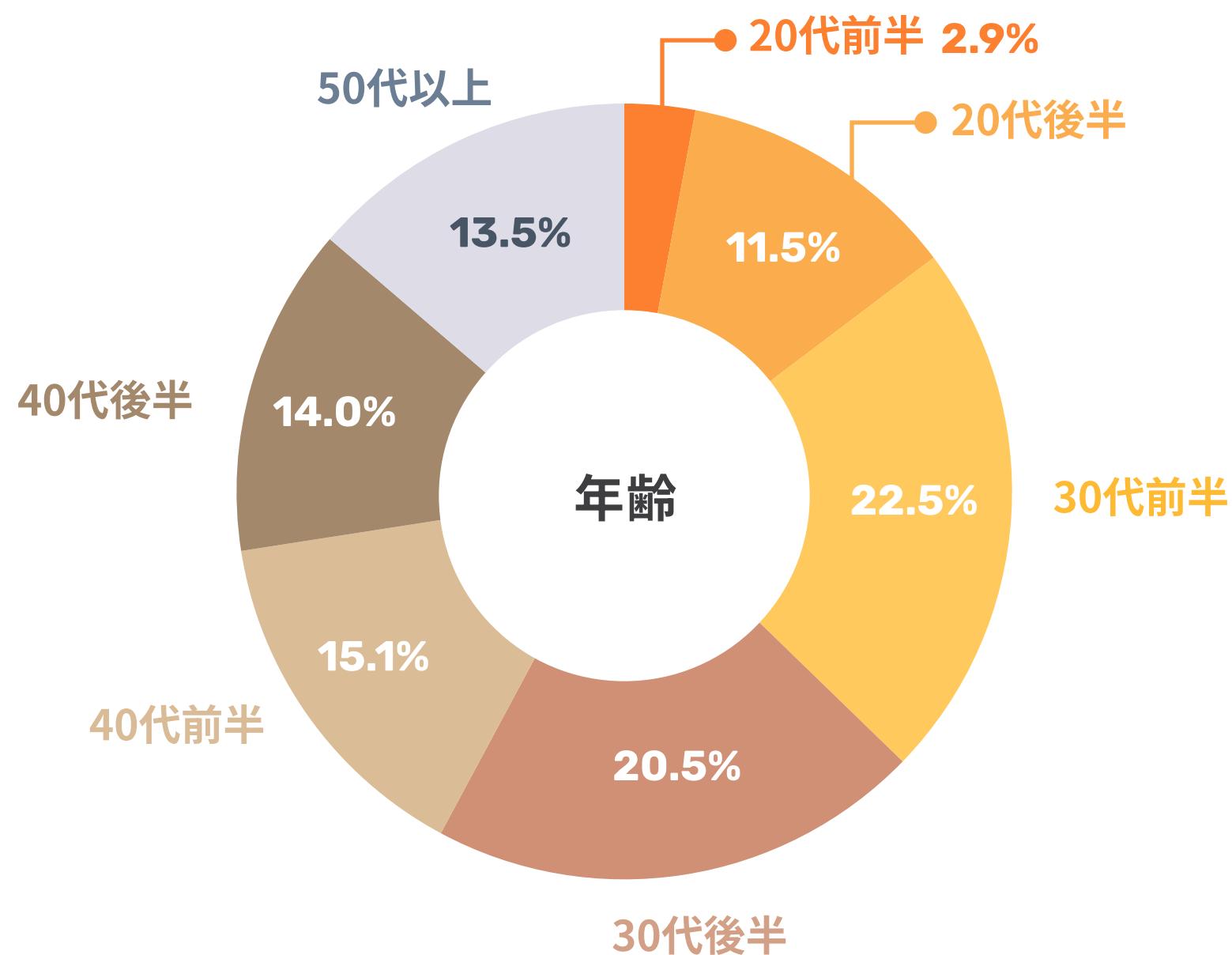
回答者数：615名（うちエンジニア＝有効回答数：591名）

（※回答者が途中で回答をやめた場合、当該時点までの回答を集計の対象としています）

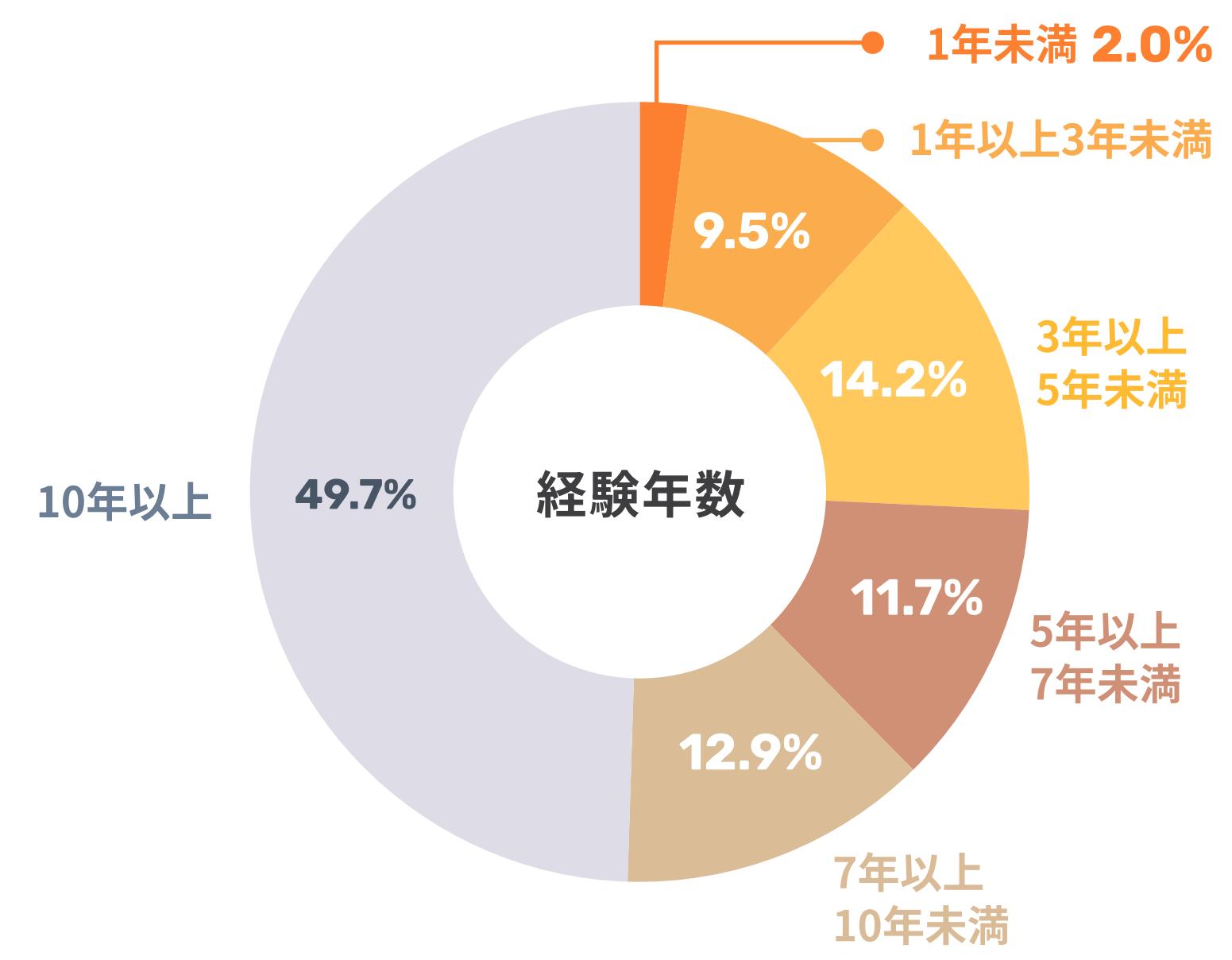
01 調査対象者の概要

回答者は30代～40代で経験10年以上のエンジニアが中心。
(※前回調査から属性の大きな変化はない)

設問 あなたの年齢を教えてください



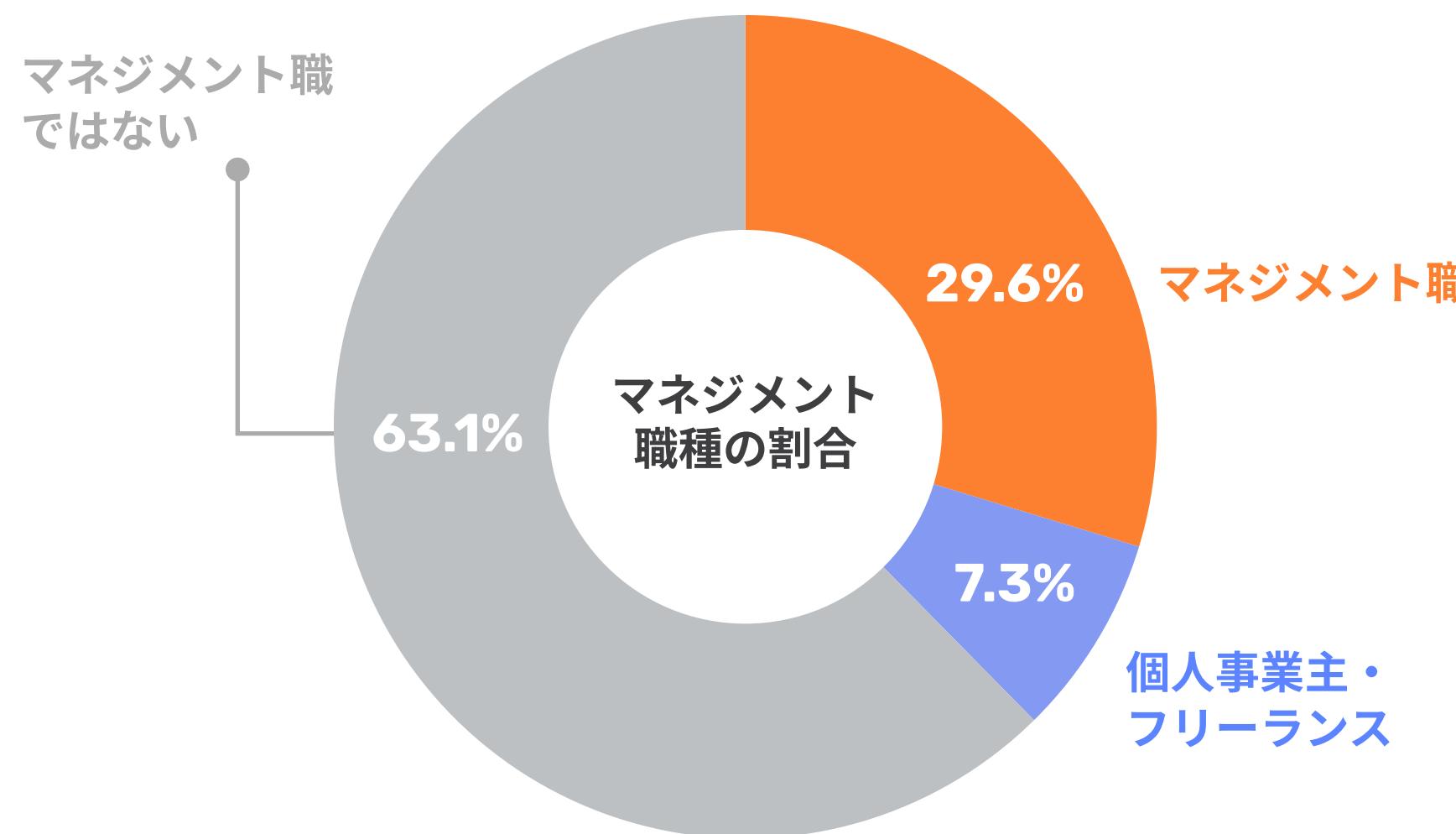
設問 エンジニアとしての経験年数を教えてください



回答者の2割がテックリード・EMなどのマネジメント職。
また、回答者のおよそ6割が役職を持たないエンジニアとなっている。

設問

マネジメント職に該当する方は当てはまるものをお答えください

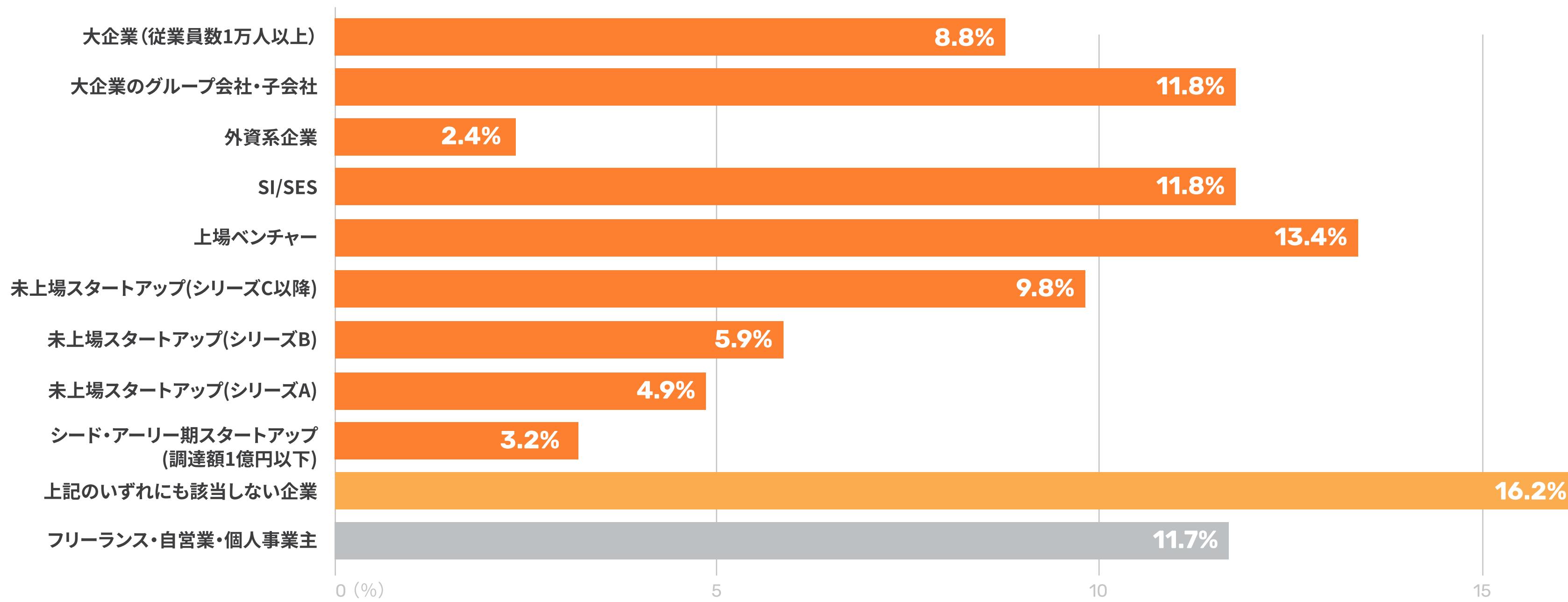


「マネジメント職種」回答者の内訳

エンジニアマネージャー	59名
テックリード	58名
スクラムマスター	15名
CTO / 技術顧問	12名
CEO / 経営者	7名

回答者の所属企業規模は「上場ベンチャー」が最も多い、それを含むベンチャー企業所属者が約半数。他、大企業やSIerに所属するエンジニアも一定数回答。

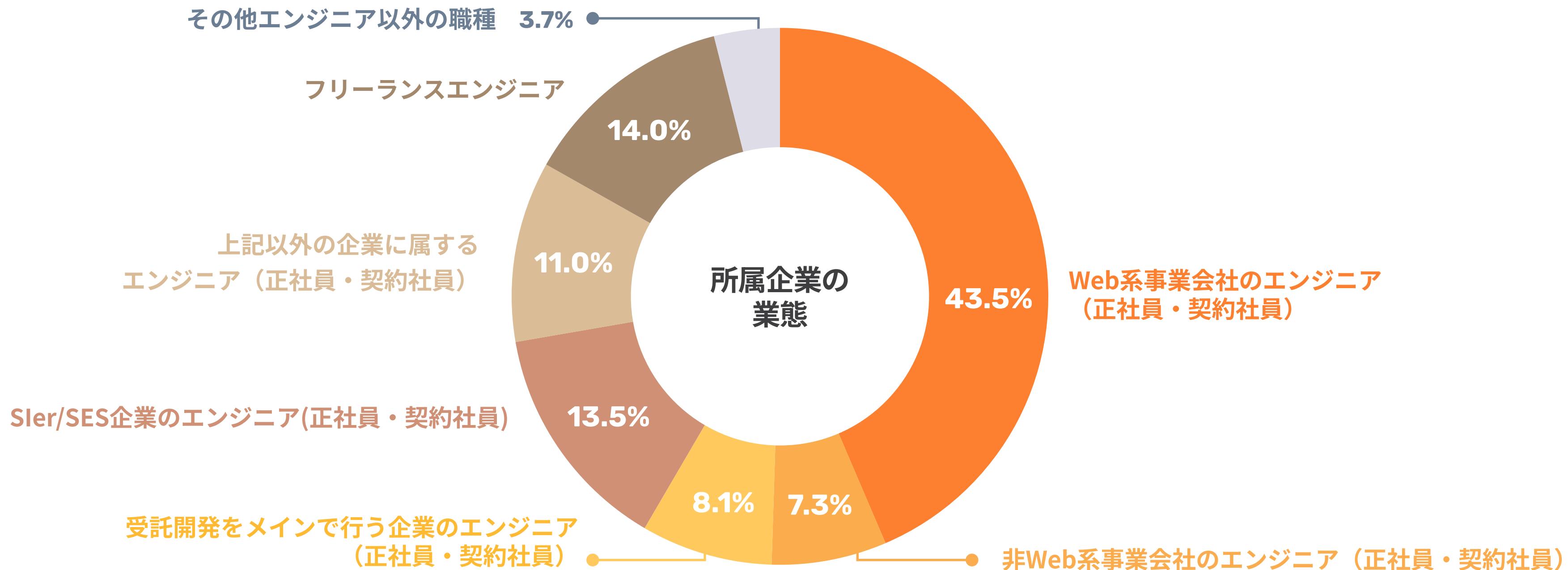
設問 現在所属している企業のタイプに当てはまるものを答えてください



回答者の所属企業の業態は、「Web系事業会社」が最も多い43.5%
SIer/SES企業や受託開発をメインで行う企業に所属するエンジニアも2割強存在。

設問

現在所属している企業のタイプに当てはまるものを答えてください



回答者の過半数が「バックエンド」「フロントエンド」「フルスタック」エンジニアなどのWebアプリケーション開発に従事。

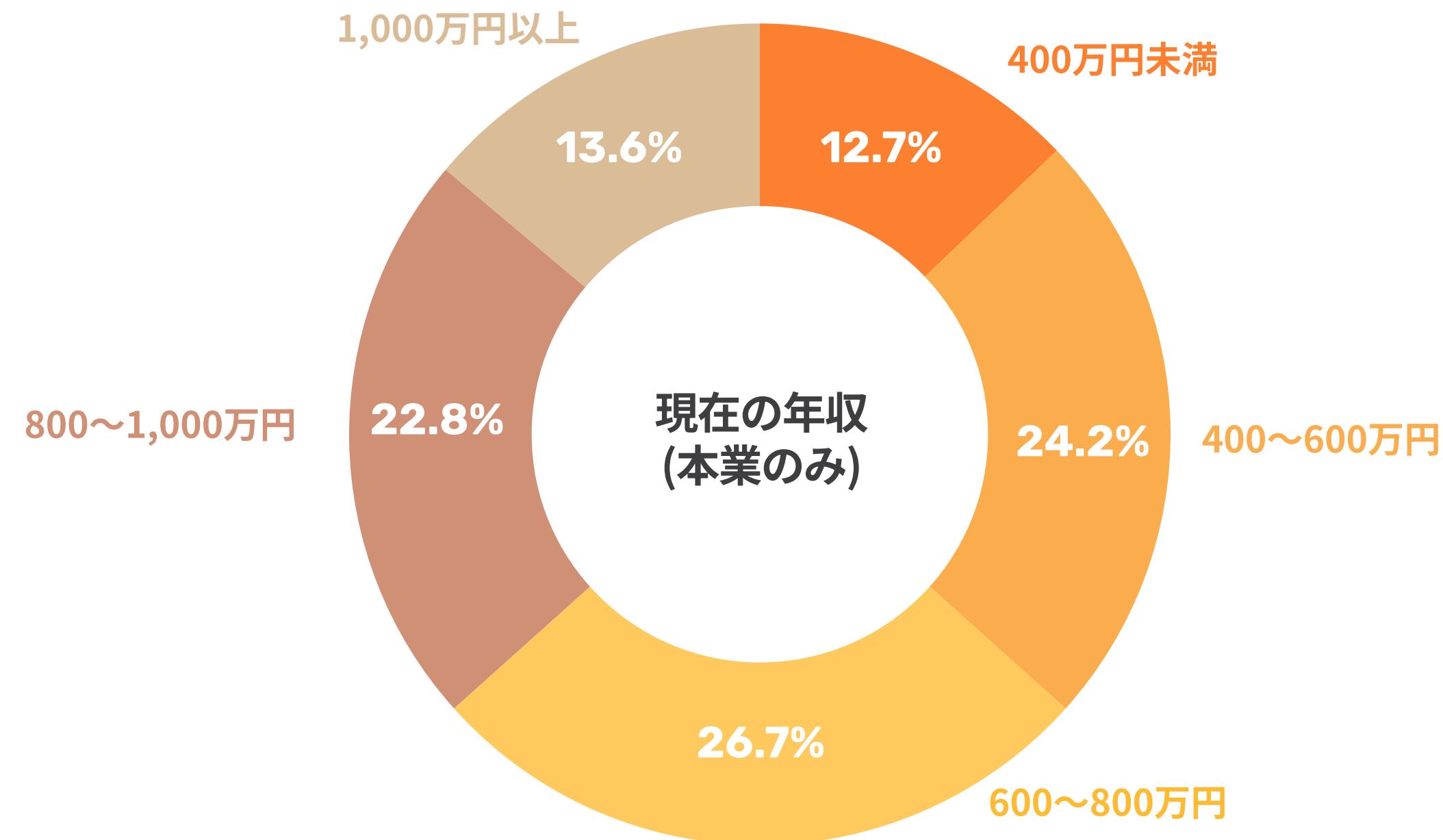
設問 あなたの現在の職種として、最も当たるものを1つお答えください

1 フルスタックエンジニア	23.5%	11 AIエンジニア	2.1%
2 バックエンドエンジニア	20.5%	12 SRE	2.0%
3 フロントエンドエンジニア	8.5%	13 システムエンジニア（社内SE）	1.9%
4 プロジェクトマネージャー	5.1%	14 コーポレートエンジニア / 情シス	1.7%
5 QAエンジニア	4.1%	15 プロダクトマネージャー	1.4%
6 インフラエンジニア	3.9%	15 データサイエンティスト	1.4%
7 モバイルエンジニア	3.7%	15 ITコンサルタント	1.4%
8 システムエンジニア（SIer）	3.4%	18 セキュリティエンジニア	1.0%
9 データエンジニア	2.9%	19 機械学習エンジニア	0.8%
10 組み込みエンジニア	2.2%	19 ソリューションアーキテクト	0.8%
		19 データアナリスト	0.8%
		19 DevOpsエンジニア	0.8%
		その他	6.1%

回答者の年収帯は「600~800万円」が最も多いが、
「年収400万円未満」や「1,000万円以上」の回答率も10%を超えてい。

設問

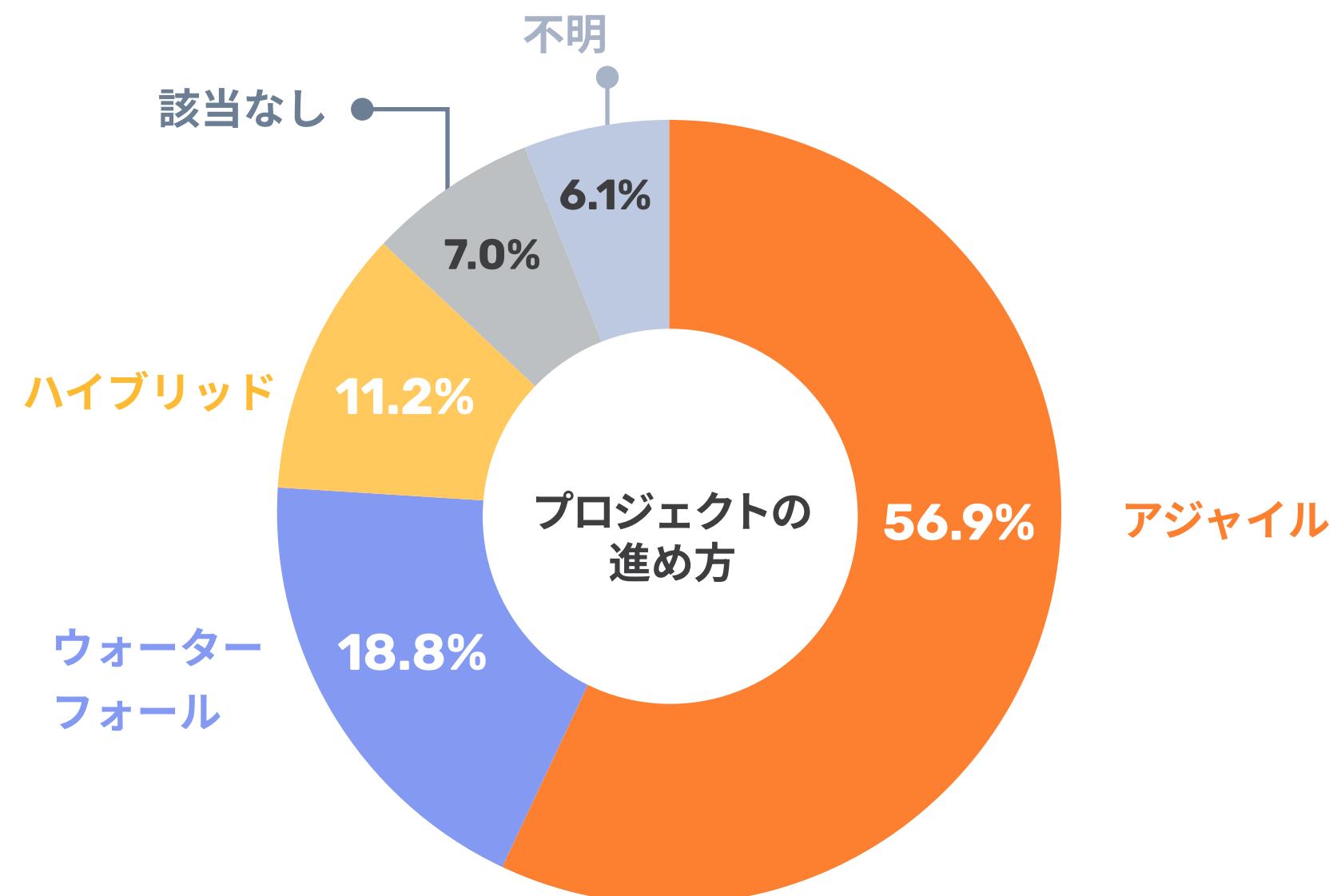
現在の年収(本業のみ)について当てはまるものをお答えください。※手取り金額ではなく、額面上の金額をお答えください



回答者のおよそ半数がアジャイルベースでの開発を行っており、
また87.4%の回答者がGitHubやGitLabなどGitベースでの開発管理を行っている。

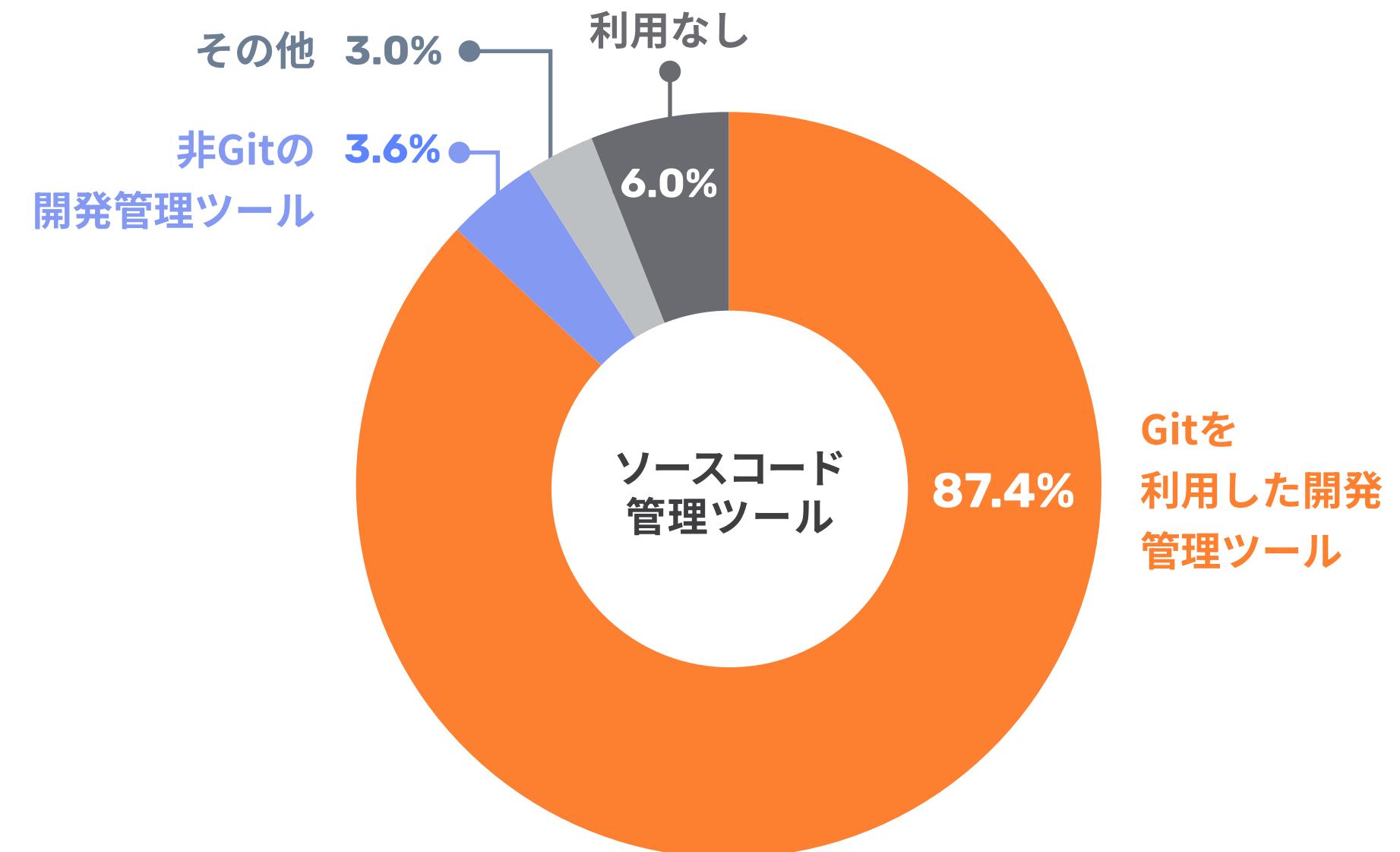
設問

現在業務で関わられている開発における主なプロジェクトの進め方として最も当てはまるものを1つ選んでください



設問

現在業務で使われているソースコード管理ツールとして、最も利用頻度が高いものを1つお選びください



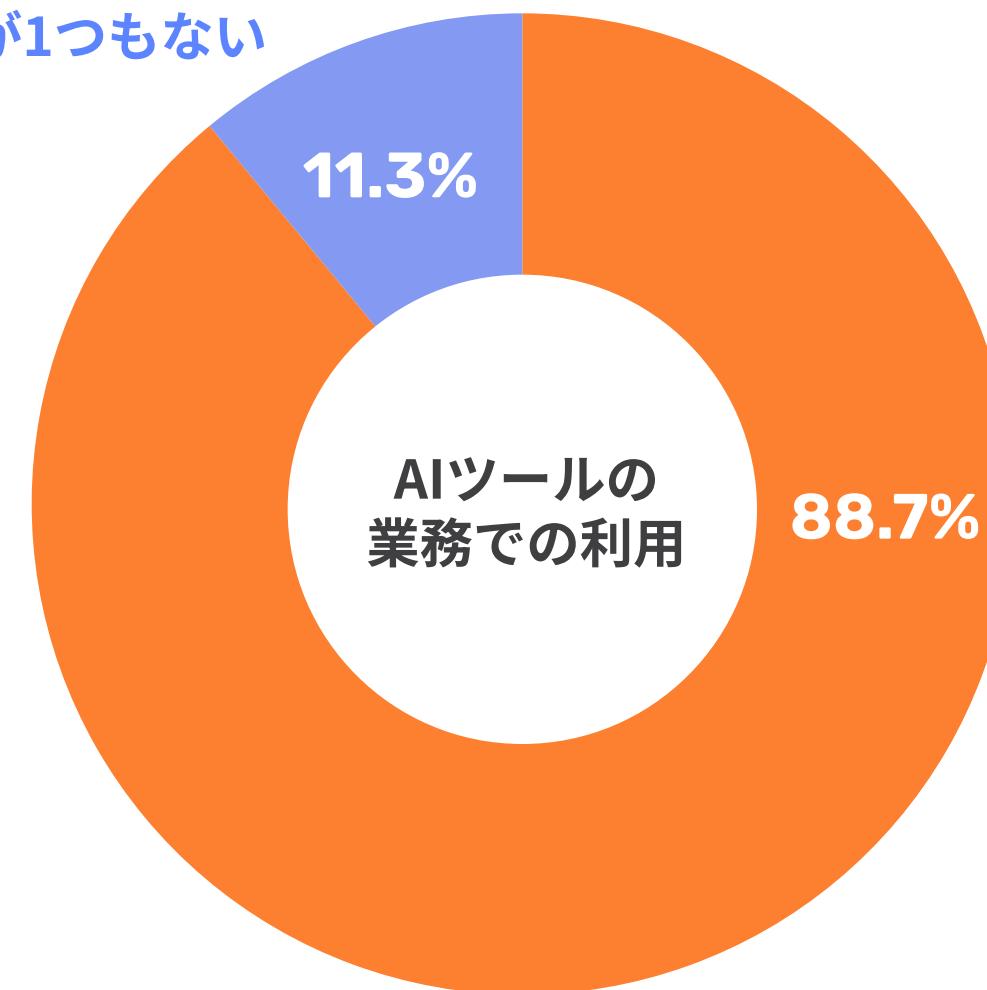
02 エンジニアのAI活用状況

回答者の88.7%が何らかのAIツールを業務で利用。また、Coding Agentに限っても7割以上の回答者が業務内で利用している。

設問

AI関連のツール・技術の利用状況について、最も当てはまるものを選んでください。

業務で利用している
ツールが1つもない



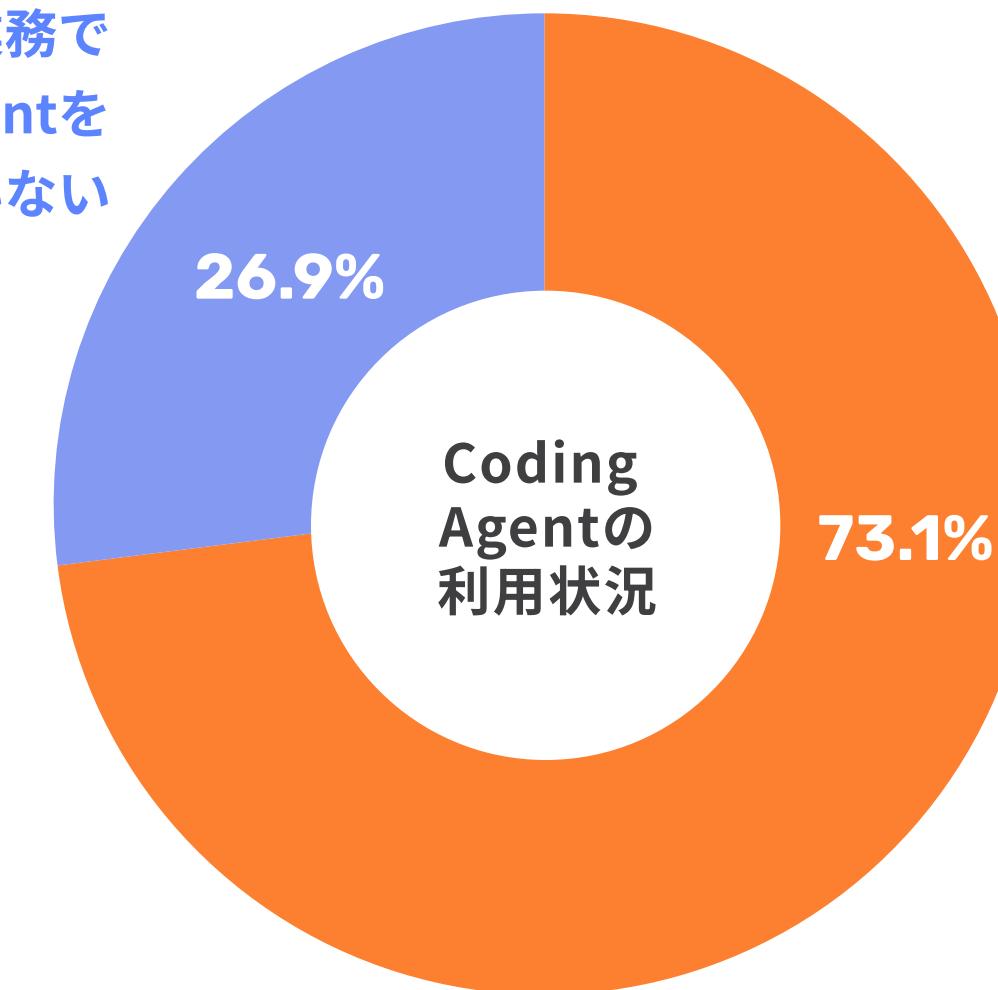
業務で
利用している
ツールが
1つ以上ある

選択肢として用意した28種類のツール・技術のうち、1つ以上「業務で利用している」と回答した者を「業務で利用中」と見做して集計。

設問

以下のCoding Agentの利用状況について、最も当てはまるものを選んでください。

業務で
Coding Agentを
利用していない



業務で
Coding
Agentを
利用している

選択肢として用意した12種類のツール・技術のうち、1つ以上「業務で利用している」と回答した者を「業務で利用中」と見做して集計。

Coding Agentの業務利用率は GitHub Copilot, Claude Codeがそれぞれ3割を越えている。また、Copilot, Cursor, Clineについては「使うのをやめた」層も10%以上存在している。

設問 以下のツール・技術の利用状況について、最も当てはまるものを選んでください

	日常的に業務で利用している	日常的に業務外(個人開発など)で利用している	以前は使っていたが使うのをやめた	触ったことがある	名前は聞いたことがある	名前を聞いたことがない
GitHub Copilot	35.7%	9.2%	16.0%	18.1%	20.5%	0.6%
Microsoft Copilot	14.4%	5.5%	5.8%	25.5%	43.1%	5.7%
Claude Code	32.6%	10.1%	5.8%	16.6%	31.2%	3.7%
Codex	11.1%	6.6%	3.3%	12.3%	55.8%	10.9%
Cursor	17.2%	7.0%	11.9%	15.8%	43.7%	4.5%
Cline	2.3%	1.6%	12.9%	13.3%	54.2%	15.8%
Devin	8.2%	1.0%	7.2%	9.9%	60.8%	12.9%
Gemini CLI	6.6%	9.6%	7.2%	20.9%	48.1%	7.6%
AWS Kiro	1.2%	2.9%	4.1%	13.8%	59.3%	18.7%
Jules	0.0%	1.2%	1.9%	6.8%	33.5%	56.5%
Windsurf	1.0%	0.6%	3.3%	4.3%	40.4%	50.5%
Code Rabbit	6.2%	1.6%	3.7%	7.0%	36.6%	44.8%

ベンチャー企業と大企業・SIerとで主に利用するCoding Agentに違いがある。
前者はClaude Codeの利用率が高く、後者はCopilotの利用率が50%を越えている。

設問

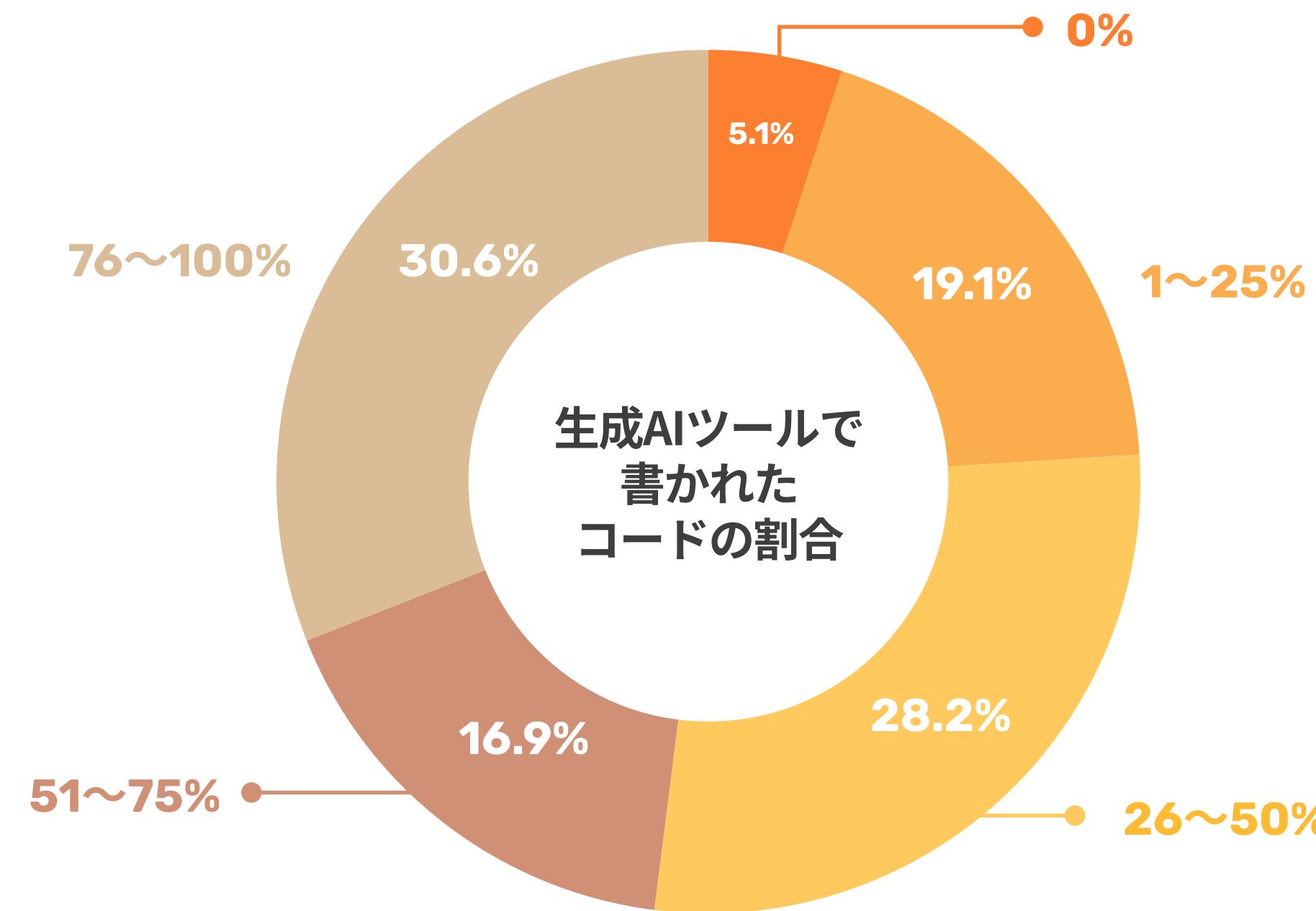
上記のツールのうち、2025年11月時点で「最も利用頻度が高い」ツールを1つ教えてください。

	回答者の所属企業					
	メガベンチャー	スタートアップ	大企業 / グループ会社	SIer / SES	その他企業 (中小企業など)	フリーランス
Claude Code	41.4%	40.2%	19.5%	19.0%	17.5%	25.5%
GitHub Copilot	24.3%	19.7%	35.8%	22.4%	28.8%	32.7%
Microsoft Copilot	4.3%	1.6%	22.8%	32.8%	22.5%	10.9%
Cursor	21.4%	22.0%	8.9%	8.6%	15.0%	9.1%
Gemini CLI	4.3%	3.1%	3.3%	6.9%	7.5%	12.7%
Codex	2.9%	4.7%	1.6%	5.2%	2.5%	5.5%
Devin	0.0%	3.9%	2.4%	0.0%	1.3%	0.0%
その他	1.4%	4.7%	5.7%	5.2%	5.0%	3.6%

Coding Agent利用者の「コードに占めるAIが生成したもの」の比率の平均は52.0%
75%以上のコードをAIで作成しているエンジニアも3割以上存在。

設問

現在、あなたが書いているコードの何%程度が生成AIツールを用いて書かれたコードですか？



Coding Agent利用者のうち、PR数やデプロイ数は現段階では「変わらない」という声が約半数を占め、特に「レビュー時間」については悪化の傾向も見られている。

設問

以下のツール・技術の利用状況について、最も当てはまるものを選んでください。

	全回答			AI活用が進んでいる職場			AI活用が遅れている職場		
	改善した	変わらない	悪化した	改善した	変わらない	悪化した	改善した	変わらない	悪化した
プルリクエスト数	49.9%	48.8%	1.3%	55.6%	43.9%	0.5%	42.1%	54.4%	3.5%
レビュー時間	43.5%	39.2%	17.3%	47.7%	34.7%	17.6%	42.2%	46.9%	10.9%
変更リードタイム	41.1%	55.0%	3.9%	44.7%	52.7%	2.7%	33.9%	62.9%	3.2%
デプロイ頻度（デプロイ数）	38.6%	58.5%	2.8%	43.0%	55.4%	1.6%	35.0%	60.0%	5.0%

※Gitを利用した開発を行っていないエンジニアには回答しづらい設問のため、選択肢として「分からない」を用意し、その選択肢を選ぶように設問文の中で指示している。なお、上記集計の割合の分母からは「分からない」の回答は除いている。※「AI活用が進んでいる職場」「AI活用が遅れている職場」はそれぞれ別の設問（「あなたの職場のAI活用状況として最も近いものを選んでください」）の回答に基づいて分類。

Coding Agent以外のツールではChatGPT, Gemini, Claudeの利用が圧倒的

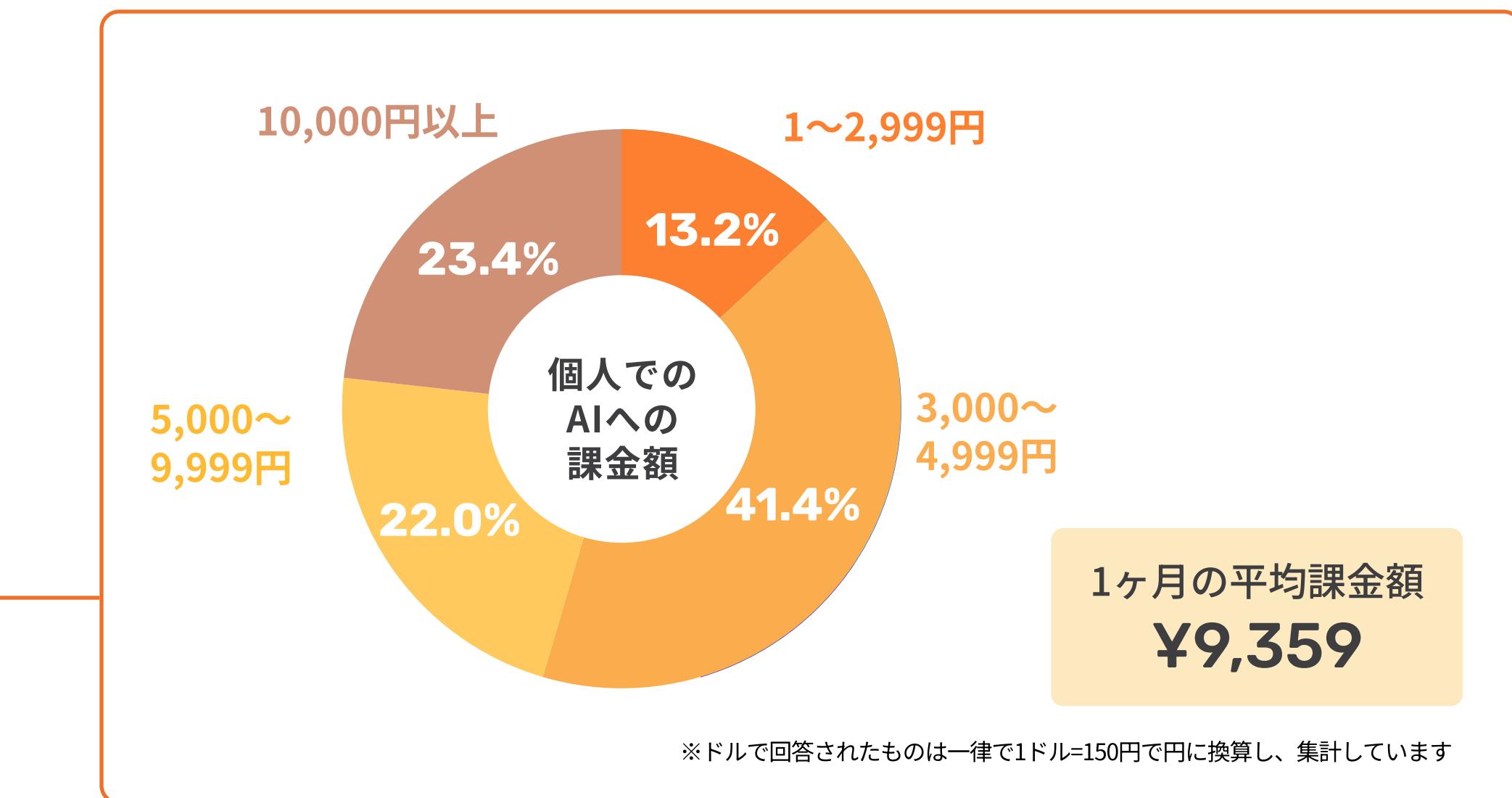
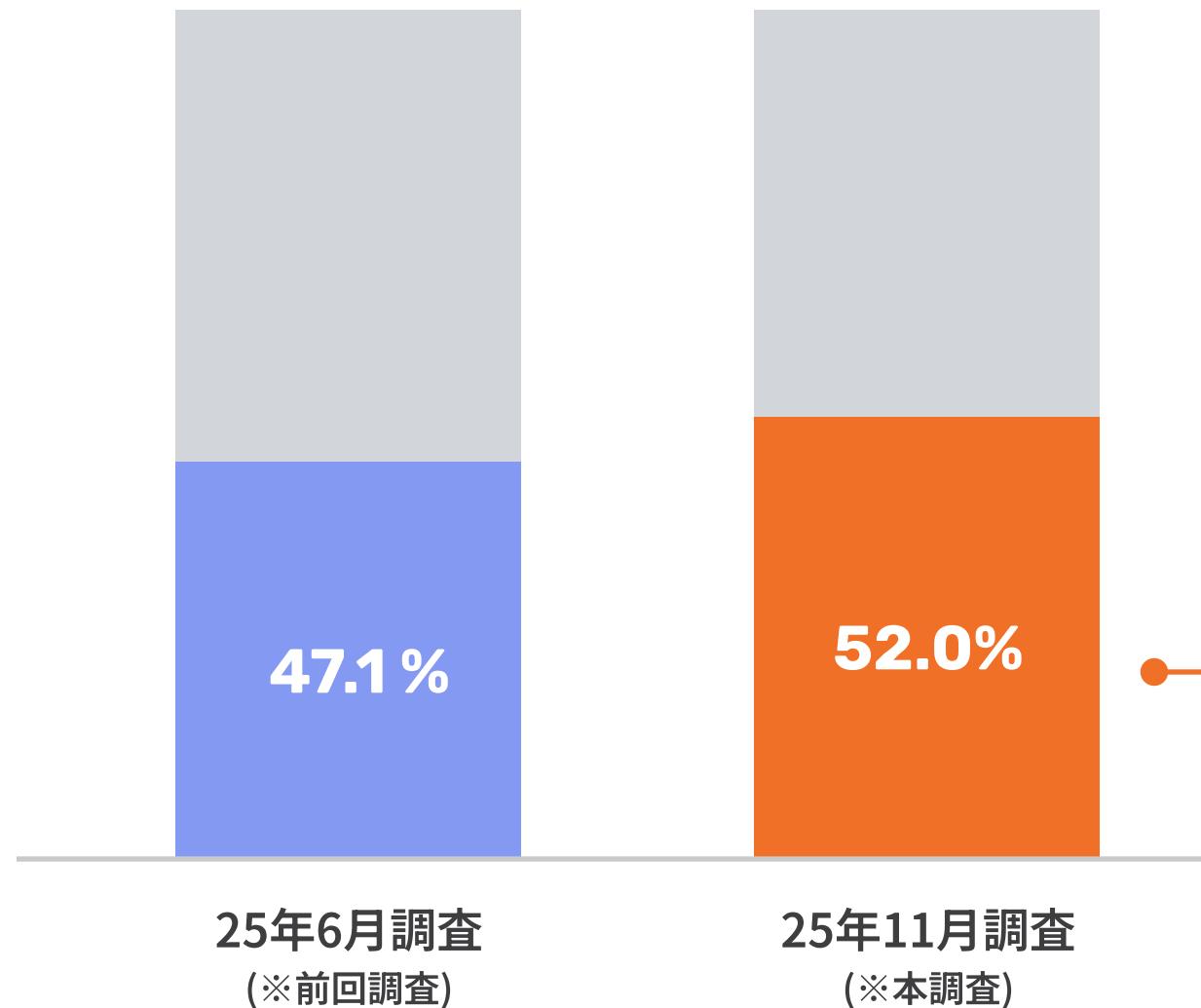
設問 以下のツール・技術について、最も当てはまるものを選んでください

	日常的に業務で利用している	日常的に業務外で利用している	利用をやめた	触ったことがある	名前は聞いたことがある	名前を聞いたことがない
ChatGPT	50.9%	26.5%	10.3%	10.7%	1.2%	0.4%
Gemini	42.9%	22.8%	4.9%	20.3%	9.2%	0.0%
Claude	32.9%	14.0%	5.5%	18.1%	24.8%	4.7%
NotebookLM	17.7%	11.9%	4.1%	22.0%	33.7%	10.5%
NotionAI	9.0%	3.9%	4.1%	20.3%	53.8%	9.0%
Perplexity	3.9%	9.9%	10.5%	17.5%	33.9%	24.2%
DeepSeek	1.9%	3.9%	4.7%	18.9%	61.0%	9.6%
GenSpark	1.6%	2.3%	2.7%	10.7%	43.3%	39.4%
v0	2.7%	3.1%	3.5%	12.3%	30.8%	47.6%
Canva	1.6%	10.3%	3.1%	23.0%	44.6%	17.3%
Dify	3.1%	1.8%	2.1%	14.2%	54.8%	24.0%
n8n	1.9%	1.4%	2.1%	7.0%	40.5%	47.0%
LangChain	3.7%	1.8%	1.9%	11.5%	46.8%	34.3%
LangGraph	1.8%	1.6%	1.2%	4.9%	36.1%	54.6%
LangSmith	1.2%	0.8%	0.8%	4.1%	36.1%	57.1%
LangFuse	0.8%	0.4%	1.4%	2.9%	32.2%	62.4%

個人でのAIへの課金率は前回と同水準だが、課金額は全体的に上昇傾向にあり、10,000円以上課金している割合が 前回：13.7% → 今回：23.4% に増えている。

設問

個人で生成AIツールに課金している金額（月額）を日本円でお答えください。課金していない場合は「0」と回答ください。
※ APIを利用して従量課金での支払いが発生している場合は、平均的な金額をお答えください

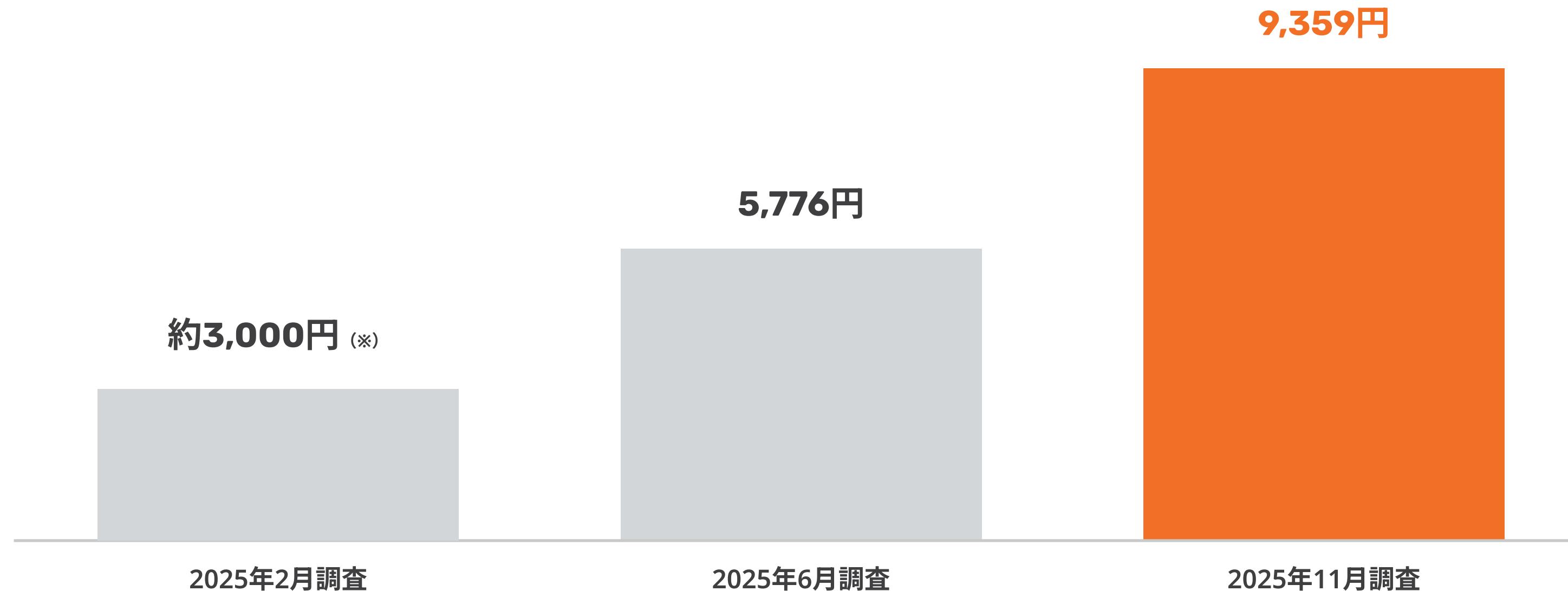


※前回の調査結果は[こちら](#)からご確認いただけます。

課金者の平均課金額は、2025年に実施した3回の調査を比較しても上昇傾向にある。
個人的にAIに課金するユーザー「数」だけでなく、使われるAIの「量」も増加中。

設問

個人で生成AIツールに課金している金額（月額）を日本円でお答えください。課金していない場合は「0」と回答ください。

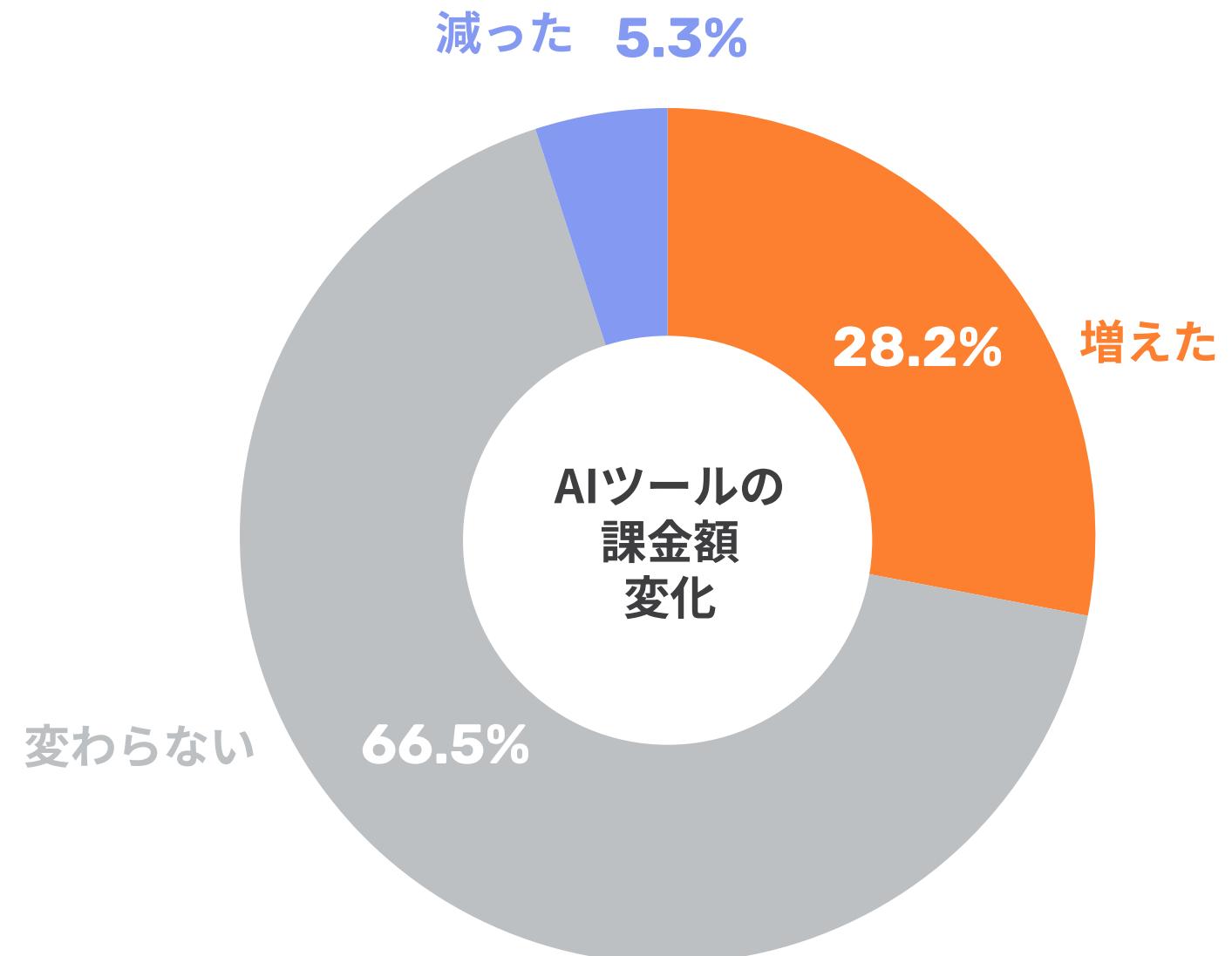


※2月調査時は金額帯を選択する形で回答を取得。6月・11月調査時は具体的な金額を回答者が明記する形式で回答を取得しています。

回答者の3割弱が「この半年でAIへの課金額は増えた」と回答。
具体的に課金の多いツールはChatGPT, Claude Code などが多くなっている。

設問

この半年間で個人でAIツールに課金している金額に
変化はありましたか？



設問

次のうち、現在あなたが個人で課金をしているサービスを
全てお選びください

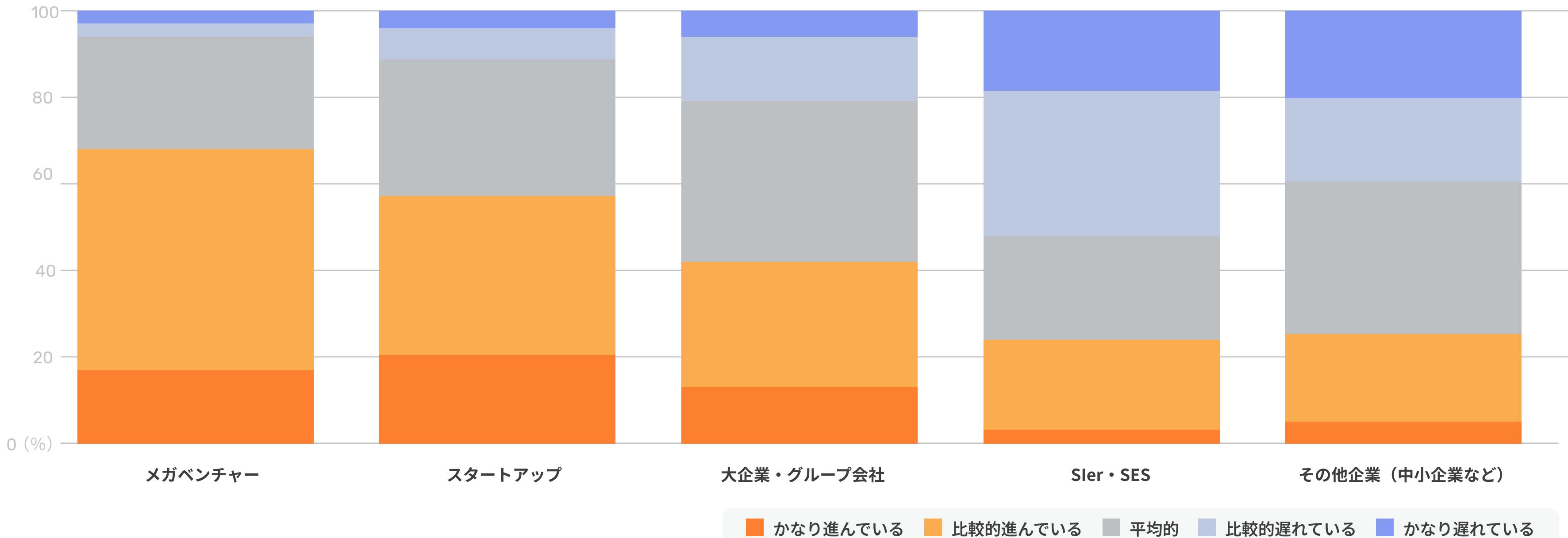
I 課金者の多いツールとその割合

1 ChatGPT	44.3%
2 Claude Code	34.4%
3 GitHub Copilot	20.5%
4 Cursor	15.4%
5 Codex	15.4%
6 Gemini	13.9%

所属する組織の規模・業態によって、職場の現在のAI活用状況に対する認識が大きく異なっており、特にSIer・SES企業に属するエンジニアは「遅れている」と感じている。

設問

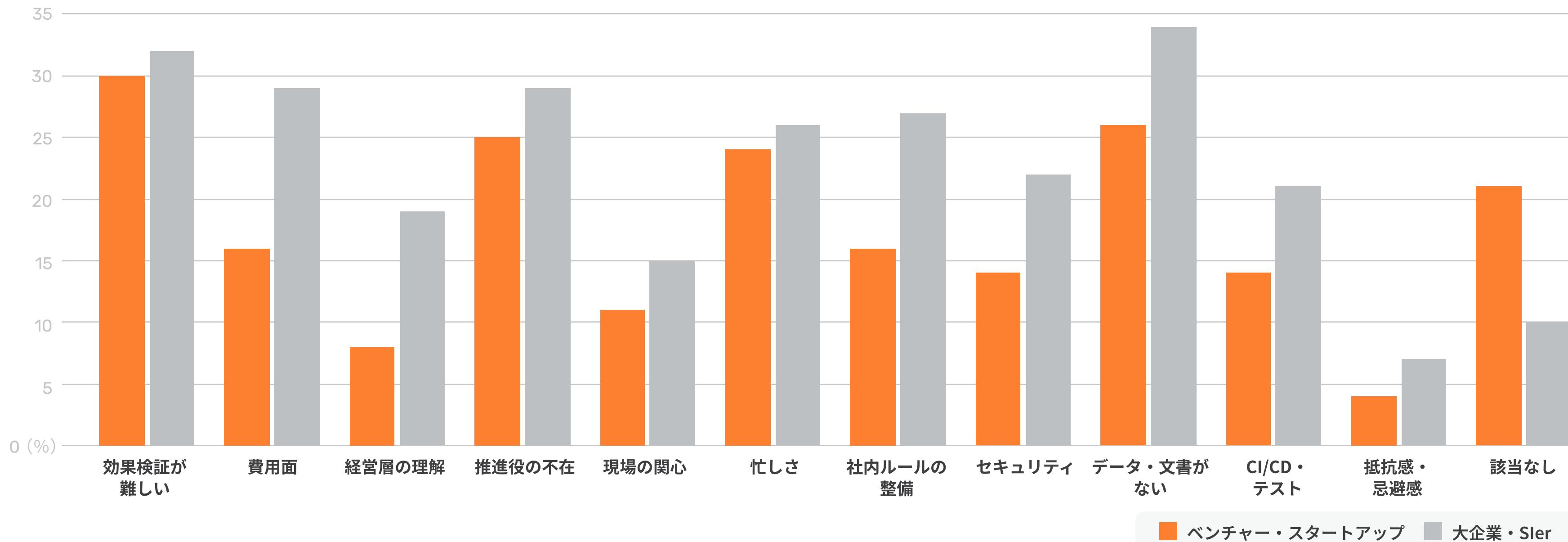
あなたの職場はAI技術・ツールの活用がどの程度進んではいると感じますか？最も近いものを1つお選びください。



「効果検証方法」や「データや文書の整備」「推進役の不足」は企業群に関わらず共通の課題。大企業やSIerなど規模が大きい企業ほど「費用面で投資しづらい」傾向も。

設問

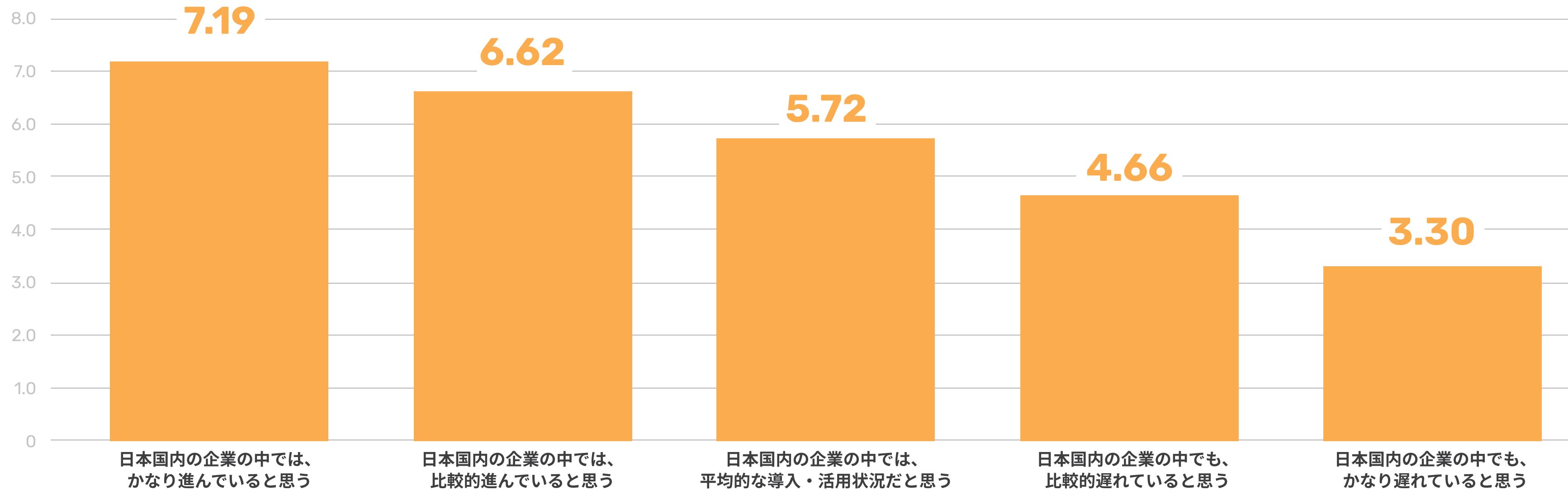
あなたが所属する組織でAI活用を進める上での「課題」となっている要因として、当てはまるものを全てお選びください。



職場のAI活用に対する満足度と従業員のエンゲージメントはある程度相関しており、AIへの投資はリファラル採用や退職防止の観点にも影響することが想定される。

設問

現在勤めている企業について、あなたは現在の職場を親しい友人や知人にどの程度おすすめしたいと思いますか？
(「1=最低、10=最高」の10段階で評価されたもののセグメントごとの平均点を以下グラフ化)

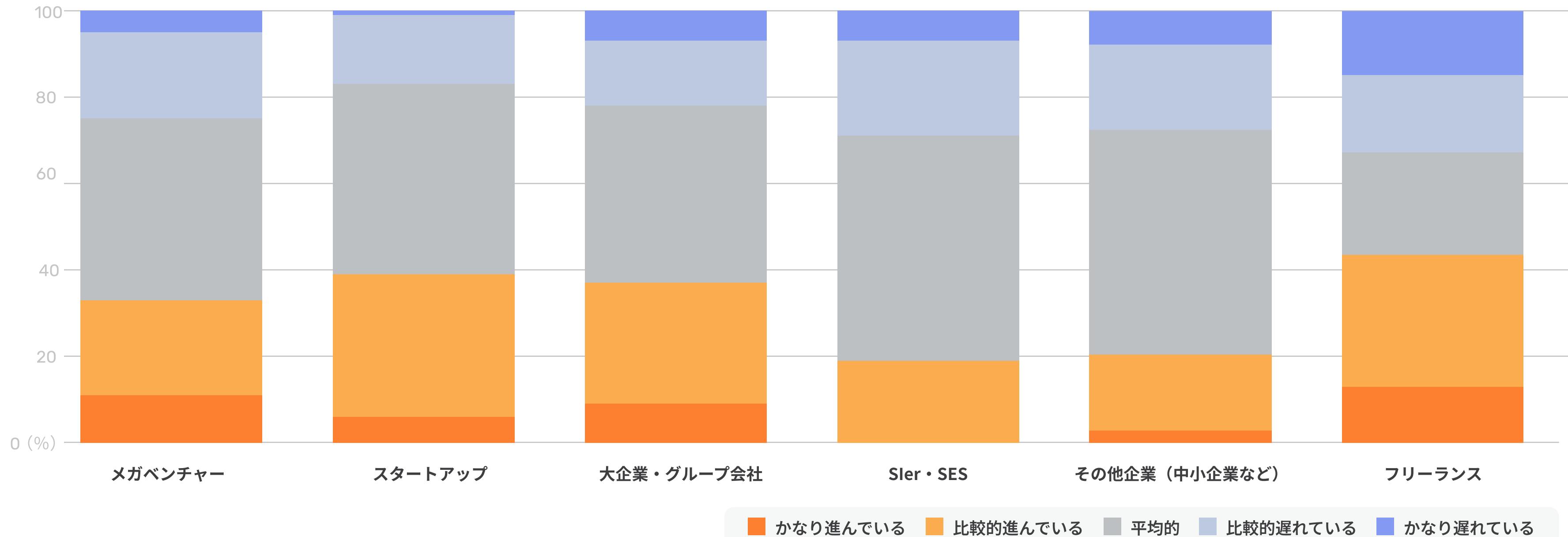


横軸は「あなたの職場はAI技術・ツールの活用がどの程度進んでいると感じますか？」の設問に対する回答結果

「職場の活用度」に対して、「個人としての活用度」の認識は企業規模による差分が比較的小さく、全体的に「平均的～活用できていない」方に認識が寄る傾向。

設問

あなた自身はAI技術・ツールの活用がどの程度進んでいると感じますか？最も近いものを1つお選びください。



AIを活用しているエンジニアほど「意思決定」や「頭の切り替え」に悩まされており、逆に活用が少ないエンジニアほど「情報キャッチアップ」に困難さを抱えている。

設問 AIの普及により、普段の業務において新たに生じた「悩み」として、以下の選択肢中に当てはまるものがあれば全てお選びください。

	複雑・難しい意思決定を迫られる回数が増えている	どこまでを機械に任せるかの判断に迷う	複数タスクを走らせるため、頭の切り替えが難しい	開発スピードが上がり、アウトプットの速度に焦らされる	レビュー機会が増え、AIの出力が正しいかを判断するのに注意力を要する	手を動かす機会が減ったことで楽しさが損なわれている	新しい技術が次々と出るため、情報のキャッチアップが困難	当てはまるものは1つもない
全回答	35.6%	36.2%	27.3%	21.4%	39.2%	24.0%	50.3%	6.7%
AI活用が進んでいると回答したエンジニア	42.5%	31.3%	34.4%	22.5%	38.8%	20.0%	42.5%	5.0%
AI活用が遅れていると回答したエンジニア	23.6%	38.6%	19.7%	22.0%	37.0%	24.4%	57.5%	6.3%

フリーコメントでは、組織の側面で「若手の育成」「レビュー時間の増大」「経営層の理解の薄さ」などを指摘するコメントが多く見られた。

設問

AIの普及により、普段の業務において新たに生じた「悩み」として、以下の選択肢中に当てはまるものがあれば全てお選びください
(※以下は「その他」に記載された自由回答)

組織や体制に関する悩み

社内でAIを使うエンジニアと使わないエンジニア（または無理やり使わされているエンジニア）の格差が広がっている。

生成されるものの精度に、タイミングやモデルによってばらつきがあることと、それを全部見て手直しするつらみ。

偉い方々はエンジニアリングをAIのプロンプトですぐに仕上げられるという簡単なタスクだと勘違いしてしまっている。

新人の基礎技術が育ちにくくなっていて、不具合原因の深堀りが出来ていない。

AI生成の結果をそのまま提出するメンバーが増えて困っている。ハルシネーションを理解していないし、理解しようとしていない。

開発経験の長い開発者でさえ、AIのコードを動作確認・レビューなしで出してくる機会が増え、レビューする負荷が激増している。

フリーコメントでは、組織の側面で「若手の育成」「レビュー時間の増大」「経営層の理解の薄さ」などを指摘するコメントが多く見られた。

設問

AIの普及により、普段の業務において新たに生じた「悩み」として、以下の選択肢中に当てはまるものがあれば全てお選びください
(※以下は「その他」に記載された自由回答)

自身の仕事や技術に関する悩み

既存でやってた改善がAIに全部持ってかれた感があり、モチベーションが下がっている。

トレンドがAIに持ってかれた分それぞれの技術のコアな部分の関心が減った。

技術要素について学習することが他の人よりも多かったためにある程度の優位性があったが、それが完全になくなってしまった。苦手なコミュニケーションの重要性が相対的に増していく、今後の働き方について悩んでいる。

プロンプトもそうだが、語彙力や対象分野への知識がないとAIのクオリティに差が出てくる気がする。

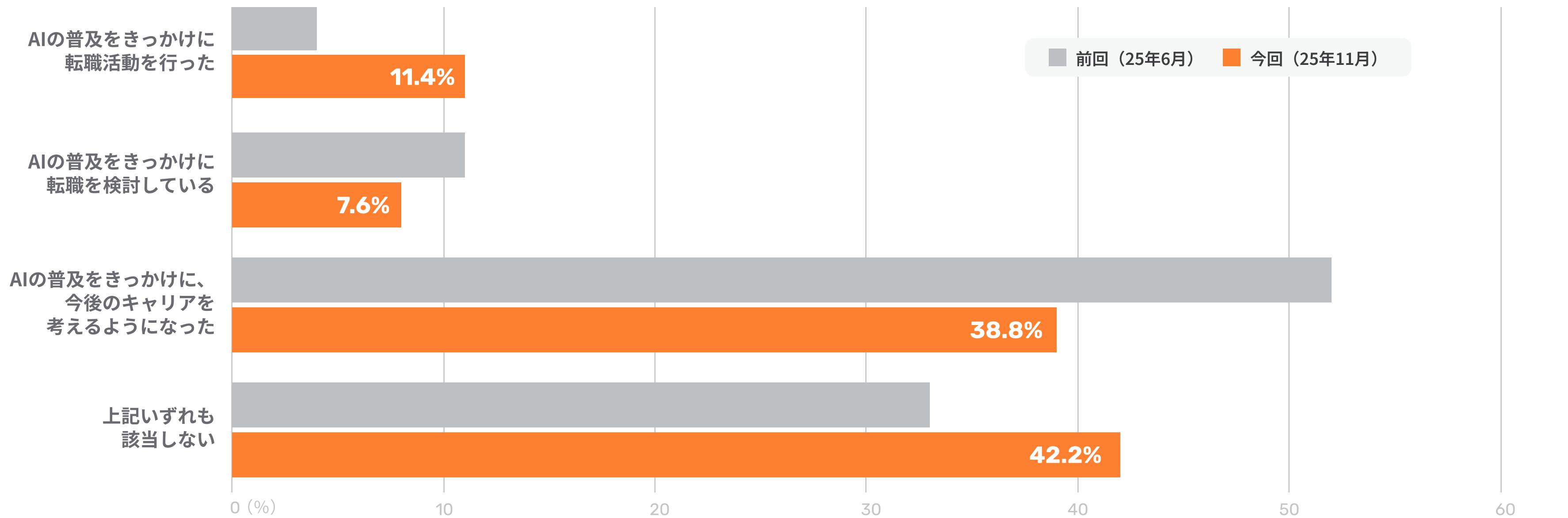
AIがコードを書く機会が増えて、まるで漢字を書かなくなつて書けなくなるがごとく、コードを書くスキルも衰えていってる気がする（読めるけど書けないみたいな）。

楽で息抜きができるような仕事は全てAIがやってしまい、コンテキストスイッチ、決断力の過剰消費などで勤務終了後の疲労がAI利用以前よりも増しました。

03 AIの普及によるキャリア選択への影響

前回調査時（25年6月）と比較すると、既にAIの普及を受けて転職活動を行った割合が高まっている反面、キャリアを検討している人の割合はやや落ち着いてきている。

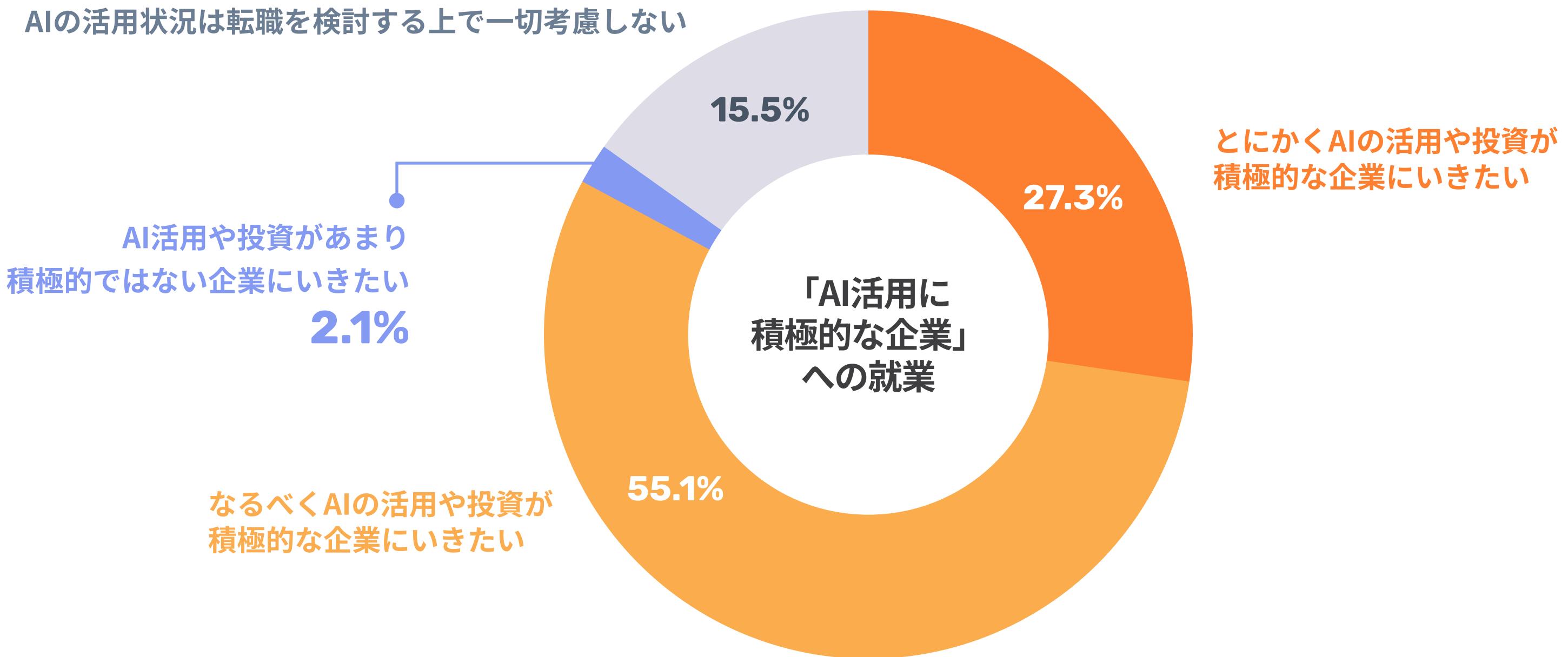
設問 直近半年間で、AI技術・ツールの普及を受けて、ご自身のエンジニアとしてのキャリアを見直し・再検討する機会はありましたか？



転職をする場合の条件としては、引き続き8割以上のエンジニアが「AI活用に積極的な企業」への就業を希望している。

設問

仮に直近半年以内に転職（または企業への就業）をおこなうとした場合、次の選択肢のうち今の気持ちに最も近いものを1つ選んでください
※実際に転職された方は転職前のお気持ちをお答えください。



AI活用を積極的に行っている層を中心に、直近の転職で100万円以上の年収アップしているエンジニアも存在。他方、100万円以上ダウンしている層もあり、二極化傾向。

設問

(直近半年間に転職された方 n=29への質問)

転職によって「年収」に増減はありましたか？副業などは含まず正社員としての報酬の増減のみお答えください。

	かなり進んでいる	比較的進んでいる	平均的	比較的遅れている	かなり遅れている	無回答
100万円以上増えた	5	1	3		1	
51～100万円増えた	1	1	2			
31～50万円増えた		2	1	1		
1～30万円増えた		1				1
前職から変化なし		2	1			
1～30万円減った				1		1
31～50万円減った						
51～100万円減った		1				
100万円以上減った			2	1		

転職の決め手となった項目の最上位に「経営者のAI投資の積極性」がきており、それ以外にもAIに絡んだ項目が転職先決定時に考慮されている傾向が見られる。

設問

(直近半年間に転職をされた方 n=29 への質問) 転職先を決める上で重視されたポイントとして、以下の各項目がどの程度あなたの選択に影響をしたか、項目ごとに5段階で評価してください。

① 経営者のAI投資の積極性 ----- 69.0%

② AI以外の開発者体験 ----- 69.0%

③ 企業・サービスの成長性 ----- 65.5%

4 AIのサービス実装への積極性 ----- 65.5%

5 AIを用いた開発者体験 ----- 65.5%

6 若手の育成環境や体制 ----- 62.1%

7 出社など働き方のマッチ度 ----- 62.1%

8 技術スタックのフィット感 ----- 58.6%

9 出社でも生産性が落ちない仕組み ----- 55.2%

10 経営者のAI等先端技術の理解度 ----- 55.2%

11 経営者との距離感 ----- 55.2%

12 サービスの理念やコンセプト ----- 48.3%

13 経営の安定性 ----- 48.3%

14 優秀な技術者の存在 ----- 48.3%

15 給与（基本給）の高さ ----- 48.3%

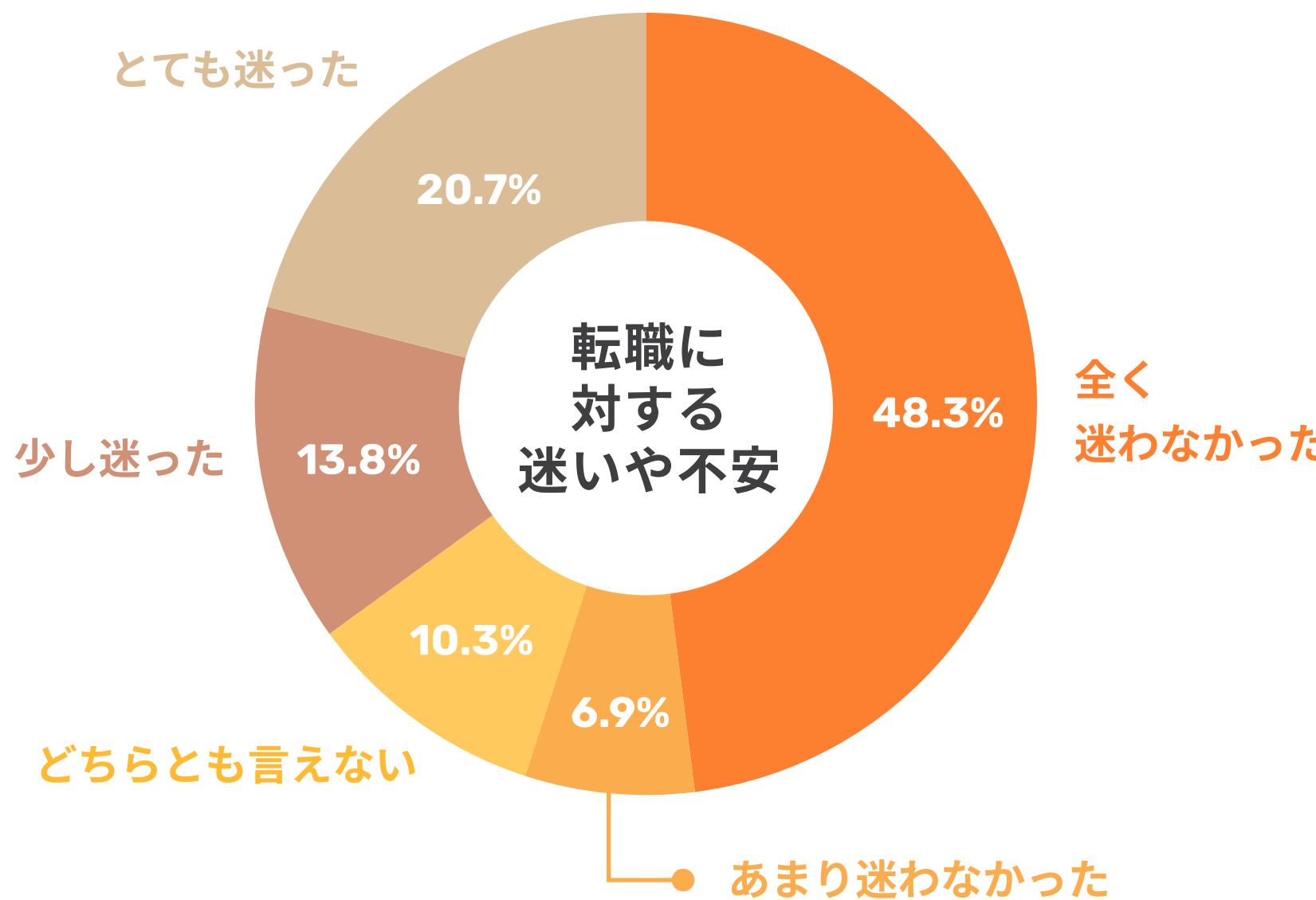
数字は「とても考慮した」「それなりに考慮した」を選択した割合の合計。
割合が同じ場合は、回答の荷重平均の値が高いものをより上位に表示

AIが普及し変化が激しい状況ではあるが、このタイミングでの転職を「迷わなかった」と回答する声が過半数を超えていている。

設問

(直近半年間に転職をされた方 n=29への質問)

このタイミングで転職することに対して、迷いや不安はありませんでしたか？



「迷わなかった」という声

- 前の職場のAIへの興味の低さに危機感を覚えていたため
- 直近の現場がAIの利用を完全に禁止していたため
- 現職への失望感、所属意義の喪失から、どこかへ転職することは決めていた。事業への強い共感を得られたうえで条件の合致する企業より内定をいただけたため迷う要素はなかった。

「迷った」という声

- 先行きが見えないので動くべきではないと思っていた
- AI黎明期で前職に留まるべきかも検討した
- ソフトウェアエンジニアに求められるスキルの変化や、今後のキャリアパスが予測しづらいものになったと感じていた。

現在転職を意識されている方の関心事は、AIだけでなく「給与」や「働き方」などが総じて高いが、最上位は「企業・サービスの成長性」であった。

設問

(直近で転職活動中またはキャリアを検討中の方 n=306 への質問) 転職先を探す上で、以下の項目をどの程度重視するか、項目ごとに5段階で評価してください。

① 企業・サービスの成長性 ----- 89.9%

② 出社など働き方のマッチ度 ----- 89.2%

③ 給与（基本給）の高さ ----- 88.5%

4 AIを用いた開発者体験 ----- 83.4%

5 リモートで成果が出る仕組み ----- 83.2%

6 経営者のAI投資の積極性 ----- 82.4%

7 サービスの理念やコンセプト ----- 81.1%

8 AI以外の開発者体験 ----- 80.4%

9 チームの雰囲気や仲のよさ ----- 77.7%

10 能力の高い技術者が所属 ----- 77.0%

11 サービスの使いやすさ ----- 76.0%

12 CI/CDなど環境の整備度合い ----- 75.0%

13 経営の安定性 ----- 74.3%

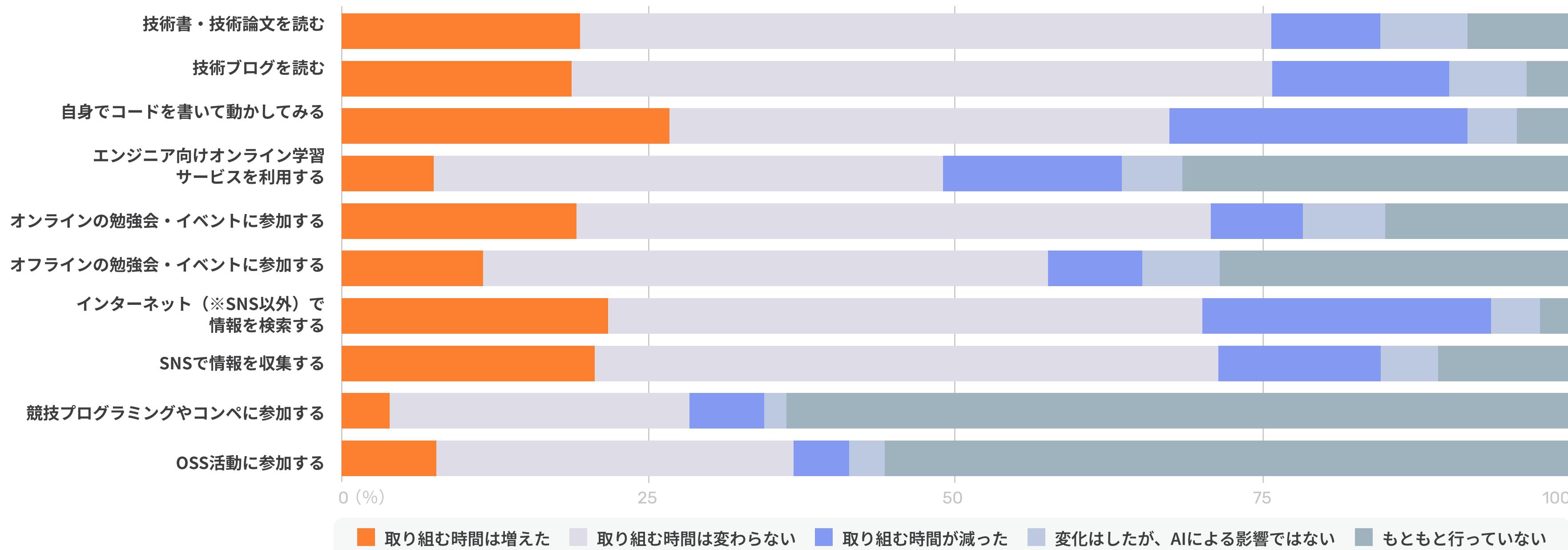
14 納得度の高い評価制度 ----- 73.3%

15 AIのサービス実装への積極性 ----- 69.9%

数字は「とても考慮する」「それなりに考慮する」を選択した割合の合計。
割合が同じ場合は、回答の荷重平均の値が高いものをより上位に表示

AIの普及によって自己研鑽の習慣にも変化が。「コードを書く」「ネットで情報検索」の2項目は「増えた」「減った」両方の変化が生じているのが特徴的

設問 AI技術・ツールの普及によって、エンジニアとしての自己研鑽、自学自習の習慣に変化はありましたか？



自己学習の取り組み時間の中央値は「週2~5時間」だが、取り組み時間と「AI活用の自信度」は連動しており、AIを積極的に活用している層ほど学習時間も長い。

設問

業務外でエンジニアリング領域の自己研鑽にかけている時間は週にどの程度ですか。平均的な時間をお答えください。

※「エンジニアリングや自己研鑽」の具体例は上の設問の選択肢全てを指すものとお考えください。

	ユーザーの回答した「AIの活用状況」				
	かなり進んで いると思う	比較的進んで いると思う	平均的な 活用状況だと思う	比較的 遅れていると思う	かなり遅れて いると思う
ほとんど行っていない	2.7%	2.4%	8.2%	19.1%	21.2%
週に1~2時間	5.4%	10.6%	14.9%	22.3%	24.2%
週に2~5時間	18.9%	35.0%	33.2%	27.7%	21.2%
週に5~10時間	18.9%	25.2%	23.6%	18.1%	18.2%
週に10~15時間	10.8%	9.8%	8.7%	9.6%	3.0%
週に15~20時間	16.2%	8.9%	5.8%	2.1%	3.0%
週に20時間以上	27.0%	8.1%	5.8%	1.1%	9.1%
週の平均学習時間	13.1時間	8.1時間	6.7時間	4.5時間	5.7時間

海外企業やITベンチャー企業だけでなく、 トヨタや任天堂などの国内企業で「働いてみたい」という声も多くみられた。

設問 あなたが「働いてみたい」と思う企業を具体的に挙げるとしたらどの会社ですか？最大3つまでお答えください。

■ 海外企業 ※回答数上位の企業のみ掲載 ※トヨタグループは“Woven by Toyota”や“KINTOテクノロジーズ”などのグループ会社への回答も含みます

Amazon (AWSも含む)

Apple

Google

OpenAI

Microsoft (日本マイクロソフトも含む)

■ 日本企業

エムスリー

サイバーエージェント

サイボウズ

さくらインターネット

Sansan

SmartHR

ディー・エヌ・エー

トヨタグループ

任天堂

freee

メルカリ

LINEヤフー

リクルート

LayerX

ログラス

「働いてみたい企業」の顔ぶれに加えて、情報発信が盛んなベンチャー企業が多数声として上がっている。

設問

AIをはじめとする最新技術のキャッチアップのためにテックブログや登壇資料、事例などを参考にしている企業があれば最大3つまでお答えください

| 海外企業

Amazon (AWSも含む)

Anthropic

Google

OpenAI

Microsoft (日本マイクロソフトも含む)

| 日本企業

クラスメソッド

サイバーエージェント

サイボウズ

タイミー

タワーズ・クエスト

ディー・エヌ・エー

DMM.com

ファインディ

松尾研究所

メルカリ

Ubie

LINEヤフー

LayerX

ログラス

おわりに
ファインディからのご案内



レポートの内容をさらに詳しく知りたい方は
ユーザーサクセス面談をご活用ください！

Findyではエンジニアの方との面談を行い、
キャリアの壁打ちや転職支援を行っています

レポートに関連する「転職事例」「企業採用ニーズ」の解説に加え、
ご経歴を踏まえた個別のアドバイスが可能です。

面談でお話しくする内容の一例

- ・企業のAI活用の動向
- ・AI時代のキャリア選択の事例

※転職意欲がないのに無理に転職を勧めることは一切致しません。



ユーザーサクセス面談の詳細はこちら

<https://findy-code.io/us-lp>





Findy

本レポートに関するご意見はこちら

レポートの感想や今後取り上げて欲しいテーマなど、
皆さまのご意見を募集しています。

<https://forms.gle/YBJBpvubxZm9qrNF6>